

# 久留米の自然



2005年7月1日

第89号

オキチモズク *Nemalionopsis tortuosa*

紅藻植物

ウミゾウメン目チスジノリ科

撮影日 2005年4月16日

撮影場所 甘木市下浦の用水路

撮影者 高山美子

## オキチモズク

南方系の藻類で、菊池市、山鹿市、長崎県雲仙、愛媛県松山市で報告されている。

最初の発見地、松山市「お吉泉」の名に由来してオキチモズクとされた。

川底の岩や礫に生じる暗赤色で粘質のある淡水の紅藻で、普通30cmくらいに伸びる。水温は真冬でも13℃くらい、水流や透明度、日照の関係等でごく限られた場所にだけ生育するようだ。2005年現在、甘木市下浦の用水路で、元北海道大学教授の吉田忠生氏が確認している。

その後、5月16日、甘木市中島田の湧水のある小川で高山美子が2ヶ所で発見している。

地域の人々に、絶滅危惧種である為、大切にしてほしいと伝えている。秋に発芽し、3月から5月にかけて長いもので1メートルくらいに成長、春、胞子を放出する。6月末頃の大雨による増水で、ゴミ等と共に流出するようだ。発生等まだまだ生態が良く分かっていない。これからも注目して行きたい。

## 高山 美子



元北海道大学教授  
吉田忠生氏作成

2005年4月

生育が確認されている場所

絶滅したか、近年情報が無い場所

## 久留米市の蝶31

## カラスアゲハ

## 国分謙一

夏の暑い盛りに高良川の川沿いや耳納山地の尾根道を歩いていると、大型の黒い蝶を見ることができますが、幾つかの種類が混じっているため、飛んでいる時に判別するのは難しい蝶です。黒いアゲハチョウの仲間は、河原や山道等の湿った場所で吸水していることが多く、その時は近くまで接近しても逃げないので、羽の表面の色彩や裏面の斑紋で判別できますが、非常に近縁の別種がいますから区別するようになるためには一度捕らえて確認する等の経験を積まないと難しいものと思われる。

## カラスの羽色は？

殆どの方はカラスの羽の色は何色と問われたら、黒色と回答されると思われるが、よく見ると角度により光沢がある濃緑色にも見えます。カラスアゲハは黒色の中に濃い緑色部があるので、カラスの羽色と同じように見えるからか、名付けられました。古くはカラスアゲハと言われたこともありましたが、明治の終わり頃にカラスアゲハが提唱されました。(但し日本害虫篇「明治34(1901)年第4版」では別の種類にカラスアゲハと記述されています。)

## 同じ種類！

北海道から八重山諸島まで日本全国に生息していますが、比較的新しい島にも分布しているので飛翔力が強い蝶と思えます、このような生物の場合は遺伝子の交流が行われ均一化されるのが一般的ですが、カラスアゲハは島ごとに違うと言われるほど、地方変異が多いので専門に研究している方も多いようです。

特に九州以北と八重山諸島、沖縄本島では変異が際立っていて、この3箇所のカラスアゲハを別な種類として名称を書いて並べていても昆虫を研究している以外の方は誰も気付かないほど違っています。なお沖縄本島に生息しているのは別種だとの説が1969年に発

表され当時、蝶の研究者の間で話題となりました。

## 蝶を集める

成虫は地上で吸水することが多く、特に条件がよいと10頭以上も集まっていることもあります。人工的に集めることができるので貴方も集めてみませんか！方法は簡単で谷川沿いの河原や林道等で湿った場所があれば「おしっこ」を広く一面にしておくだけで良いのです。(この場所にはすでに他の蝶達も集まっているので探すことは難しくありません)1時間ほど後に見ると来ています、なお集まるのは比較的羽の損傷が少ない個体が多いので色彩を観察するには良いのでは。濃緑と青緑色の綺麗な蝶です。

## 久留米市での観察

平地で見かけるのは稀で、高良山や高良川流域の山間では多く見られます。黒いアゲハチョウの仲間は、特定の場所を通る性質があり、この場所のことを特に「蝶道」と呼び表して、吉見岳や兜山等の耳納山地の各地で待っていると次々に蝶が同じようなコースで飛んで来るので発見できますが、カラスアゲハと他の種類と区別するのは慣れないと難しいと思います。なおこの蝶道に飛んでくるのは雄が殆どで、雌を見かけるのは高良川沿い等低い場所が多い。

蝶道で飛んでいるのを区別するのは難しく吸水している場所ですが簡単です。今から夏休み期間中、暑い盛りに各地の谷川での清涼感を味わいながら観察されたら如何でしょうか。



## [会員投稿]

## 「一日一省エネ」に取り組もう 安元康時

地球温暖化の主因である二酸化炭素排出量の一位は、京都議定書から離脱した米国の24.4%、二位は途上国に分類され削減努力をしない中国の12.1%とこの我が儘な排出大国の二国で3分の1強を占める。三位で5.2%のロシアがやっと批准したので議定書は発効する。日本は、四位の5.2%で削減目標は6%であるが8%増えている。

政府は、議定書発効を契機に削減目標の6%を目指し、小泉首相や閣僚などが着用始めたクール・ビズ(冷房温度を28度程度に保つ夏の軽装)をはじめ、蛇口はこまめにしめよう、エコ製品を選んで買おう、アイドリングをなくそう、過剰包装を断ろう、コンセントをこまめに抜こう、の「六つの地球温暖化防止運動」を始めたが、これなら誰にでも何時でも出来るようだ。

日本の「モットイナイ」精神を国際会議などで普及させ、国際語にしようとしているケニアの女性環境副大臣ワンガリ・マータイさん(ノーベル平和賞受賞者)に習うまでもなく、日本人一人ひとりが毎日、六つの中から「一日一省エネ」に取り組もう。

環境教育読本「ひとつの川から見えるもの」  
中間報告その後

橋田沙弓

1月30日(土)久留米市役所3階会議室で、市民活動支援助成金を支給されたNPOや市民グループの結果報告の発表があった。当会も橋田、角、国分、金原が参加し、製本された環境教育読本「ひとつの川から見えるもの」の資料集を30冊用意し報告した。

全員の審査員から大変好評であった。まず写真がオリジナルで植物、蝶、トンボ、魚類、野鳥、哺乳類など数多くあること。川に関する、水みちマップが詳しく調査されたこと、などが高い評価をうけ新聞や「ポータル」にも紹介された。

## 生き物に魅せられて

## ハネビロトンボの巻 松永紀代子

2004年、三国丘陵のあちこちの池でハネビロトンボが何匹も飛んでいた。こんなに多い年は初めてだ。産卵の目撃は津古の湿地で6月30日。雌と連結した雄は、別の雄を追っ払い、木立の上へ。2、30分後、連結の2匹が何も生えていない水面に下りてきた。他の雄を追い払いながら、水面近くでスピードを落とした雄が雌を放した。雌はすかさず水面を腹の先で1回打つ。すぐに連結。こんな動作を何回も行った。

9月15日、今度は三沢のガマ池で産卵していた。連結をとかれた雌が1回腹の先で水を打つ。雄が即捕らえようとするが、ガマの葉が邪魔になって連結できない。その隙に雌は単独でどンドン産卵する。別の雄が雌をさらおうとする。3匹がもつれカサガサと翅がぶつかる音がする。こんなことが繰り返された。

水草のない部分を好むのは雄なんだろうか。雌は水されればいいのかもしれない。

ひととき 動物笑い話 その34  
レッサーパンダ

ジャイアントパンダに比べて影の薄かったレッサーパンダ、千葉市動物公園の風太君の10秒間立ち姿勢の紹介がきっかけとなり、各地の動物園からの話題もあり、人気が出て入園者数増に期待を抱かせている。「私の園では餌を洗わせようかな」「クマのように玉乗りをさせてみようかな」などの企画も出て来そうだ。近年、動物園の入園者数は減少傾向にあり、危機感を持った旭川市の旭山動物園では動物の生態を重視した斬新な施設改善に取り組み、大きな成果を挙げている。珍奇希少な動物の飼育展示は時代遅れで、園側の努力で普通種からも「注目されるのは次は俺のパンダ」と名乗り出させて欲しい。

\*パンダはアライグマ科とクマ科の両方の特徴を持つ原始的な哺乳類で、クマは立ち姿勢が出来、アライグマは飼育下で食物を水で洗う。婿養子の次兄の姓は番田です(Y.Y)

## 第21回水郷水都全国会議、第8回有明海・不知火海フォーラム in 久留米・柳川を開催して 河内俊英

水郷水都全国会議が、筑後川水問題研究会を中心とする市民グループで、16年ぶりに筑後地区、今回は久留米市で開催されました。「久留米の自然を守る会」をはじめ、多くの皆様のお世話になり05年6月11～12日に無事終了しましたことを、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

この会議は、1984年滋賀県琵琶湖で開催された世界湖沼会議、つまり湖沼に関するさまざまな環境問題について、研究者、行政、市民などが、一堂に会して、問題解決に向けた取り組みを考えていこうとする国際会議です。この湖沼会議をきっかけにして、日本の国内でも多面的に水環境問題を中心にすえて、各地域の問題を考える集まりをもつことで一致し、水郷水都全国会議が発足し全国持ち回りで開催されてきました。

今回の久留米では、1日目には原田正純先生による記念講演と有明訴訟と川辺川利水訴訟に関しての基調講演が行なわれた。「有明海訴訟」に関しては、住民側弁護団長の馬奈木昭雄・久留米大学法科大学院教授による「建設反対の運動から地域再生の運動へ」および、川辺川ダム関連では、板井優弁護団長による「川辺川ダムをめぐる闘いの現状と住民決定の時代」の講演がありました。

如何に無駄で意味の無い大型公共事業に国家予算が使われ、肝心な教育や福祉の予算が削られているのか。またそのゴリ押しの事業によって、有明海が環境が破壊され、魚介類に壊滅的被害を与えているのが明らかにされました。

分科会は2日目に開催され、以下に示す8分科会で熱心な発表と討議がなされました。

### 第1分科会：港湾埋立分科会

責任者 古川清久・筑水研

「嘆きの羊角湾」干拓事業の廃止から埋立てへ・天草の海を考える会・松本基督、「人工島埋立が及ぼす福岡市政の歪み：荒木龍昇・博多湾会議」、「大分・大入島埋立て・現地闘

争報告：下川善信・佐伯の自然を守る会」、「不知火海・大築島周辺への埋立て問題：田辺達也・八代海の自然を守る会」、「大入島と双子の公共事業・・・唐津湾佐志浜埋立て：増本亨・佐賀県議

### 第2分科会：歴史に学ぶ分科会

責任者 田中秀子・筑水研

近代河川技術が河道主義を取って以来、水害は激減しましたが、地域主体の水利の自治は失われ、昨年の新潟・福井大水害のような人命が失われるといった、壊滅的な水害が起こるようになりました。この分科会では技術の自立が確立していた藩政時代の知恵から自然とのおりあいを学びました。

「有明海沿岸クリーク地域における水秩序 加藤仁美・元九大教授」、「御境川（矢部川）の迴水路 馬場紘一・八女市文化財専門委員」、「佐賀平地河川の特質 於保泰正・森と海を結ぶ会」、「奄美の自然環境とその保全について 北畠清仁・ヤジ友の会」、「佐賀平野の流域治水 田中秀子・筑水研」

### 第3分科会：水みち分科会

責任者 角正博・筑水研

「水環境(川)は暮らしのうつわ」：近年各地で掘割、伏流水等、さまざまな地域の水路網を「水みち」ととらえ、水環境を探る試みがなされています。「水みち」を通して、地域の暮らしや景観を見直してみることで、幹川ばかりでなく、地域の中の水路網全体が地域再生への欠かせない視点となってきました。こうした点について交流・学習しました

### 第4分科会：循環型・水と農の分科会

責任者 長野真理子・循環型環境・農業の会  
有明海奥湾に広がる佐賀平野は「降れば洪水、照れば旱魃」と言われた厳しい水条件の平野でしたが、すみずみまで張り巡らされた2000kmのクリークでコメ作り日本一と言われました。しかし、農薬や化学肥料など時代の移り変わりの中、農薬使用量日本一の自治体も出るなど循環が途切れています。そこで循環型の農業から水と命を考える分科会です。

集落排水処理施設の「処理水の肥料化」による有効利用、「竹チップを堆肥化して再利用する農業」などの試みの紹介がありました。

**第5分科会：循環型社会を考える分科会**

責任者 河内俊英・久留米大学

この分科会では廃棄物を減らし、いかにして循環型社会を実現させるか、そのためにやれることは何か、また提言すべきことは何かを考える分科会でした。発表内容は、九州工大の白井義人氏による生ゴミから循環型プラスチック（ポリ乳酸による）製品の開発と利用の可能性について。あるいは、伊万里市の福田俊明氏による、堆肥作りと堆肥利用による菜の花とその製品の食用油、さらに続いて廃油の自動車燃料化の活動報告。ゴミ削減に容器のデポジットを実施することの提案がなされた。ゴミ減量により、ゴミの焼却主義からの脱却と資源・エネルギーの有効利用実現には、「生ゴミとプラスチックの焼却をやめる」などの思い切った政策が必要であること。焼却主義は長い目で見ると、環境汚染による病気を起こす心配もあること、その解決のためには、焼却に頼るゴミ減量化には、将来の人体被害のリスクを認識して、それでも安上がりな処理方法かを問う必要がある。

生ゴミの堆肥化、バイオガス化、さらにプラスチックの保管などを取り入れる必要のあることが提案された。

**第6分科会：川辺川分科会**

責任者 木原滋哉・呉高専

「これからの川辺川～対立を越えて」：川辺川ダム計画の是非をめぐる、ダム推進派と反対派の争いが続き、その行方が全国的にも注目を集めている。一方、その対立の影で多くの流域住民の結びつきや地域経済、文化の破壊が進んでいる。このような中で「対立」を越えた、新たな仕組みを備えた合意形成のあり方を大胆にこの分科会で提案しました。

第7分科会：ダム・水道を考える分科会 責任者 中原孝矩フリー・ジャーナリスト

第8特別分科会：筑後川フェスタ 責任者 財津忠幸・水の森の会事務局長

以上のように、多面的なテーマで延べ1000人に及ぶ参加者の熱心な討論がなされました。

**第19回筑後川フェスティバル**

6月10日～12日 橋田沙弓

6月10日から筑後川発見館くるめウスにおいて筑後川フェスティバルが開催された。当会担当の、「小中高生の研究展示～地域の環境問題に関する調査研究」は市内から小学校2校、中学校2校、高校1校ほか北九州から高校や小学校など11校の応募があり、12日には賞状伝達がおこなわれた。

高良川の親子自然観察会は45名余りの参加者があり昆虫は森田、国分、魚類は山川、水生生物は丸山、植物は橋田が担当した。筑後川の生き物たち作品展示は松藤、重本、橋田が担当、応募者45名には松富士作成のキーホルダーが記念品として用意された。



ヤンマ科コシボソヤンマのヤゴ（撮影 丸山由紀子）

**例会報告****第318回例会****史跡と自然探訪 国分謙一**

天候が優れなかったにもかかわらず多くの参加者があり、浦山公園入口にある古墳館で説明を受け、公園入口の壁に描かれている模様は古墳石室の模様を、塔は耳環（古墳館に展示中）を表したものだそうで、幾度となく公園には行っていましたが、何気なく通り過ぎていて今回初めて知りました。また浦山古墳の建物内に入っただけの説明があり、40年ほど前、明星中学の在学中に見学して以来の出来事でした。古墳の石材は阿蘇からどうやって古代の人は運んだのでしょうか？

塔は知っていましたが、上津小学校そばの大乗妙転六十六部供養塔に、後から付け加えられた文字があるとの説明に驚きましたし、上津土塁跡（水城）も説明を聞くまで位置を勘違いしていました。久留米の歴史を少し再認識した一日となりました。

**第319回例会 春の野草を愉しむ会****3月27日(日)20名参加 今村由子**

今年の野草を食べる会は久々の雨模様となった。テルテル坊主を下げ忘れたのか...片付けが終わる頃には、参加者全員ビショビショだった。

雨を避けて、狭いテントの中で、肩寄せ合って料理する。「もう少し味噌を足してみたらどうかしら」「これもてんぷらにしましょうか」の声が飛び交い、和気あいの雰囲気である。ズラリと並んだ料理を、各自がバイキングスタイルで盛りつけていく。まるでアジアの屋台を思わせる、例年ない光景である。揚げたてのてんぷらや、アツアツ焼きソバを頬張る。本当に美味しかった。

雨にも負けず、緑濃い野草を食べ、今年も自然の恵に元気をもらった。

\*事前準備として、鳥栖の沼川、香月宅周辺や、ふれあい農業公園、筑後川河川敷で採集をした。永勝寺周辺で竹の器も作成した。協力いただいた永勝寺の寺沢住職に感謝します。



雨の中テントの下で(撮影 佐藤好雄)



採集された野草(撮影 西山芳枝)

**春の野草を愉しむ会に参加して****津福本町 佐藤好雄**

「久留米の自然を守る会」に入ったのは随分昔のことで、会誌はいつも送って頂き、読んでいたが、年金生活者の気楽な気分ですごしていたが、世の中がキビしくなるにつれ、会誌をマジメに読むようになり、「春の野草を愉しむ会」に出席させてもらいました。

雨の中に、会員の方は夫々作業を分担して野草を料理して行かれ、おいしい「てんぷら」や、いろいろ、食べさせてもらい、野草にこんな味があるのかな、と驚きながら頂きました。又、竹でカンをつけた酒を飲むと、竹の味がしみて素朴な感じがのどを通ります。

野生的な感覚を、目、のどなどを通して感じるのは久しぶりのこと、遠い若い時、野戦の最中、食卓に「ノビル」を採って乾燥味噌で味をつけて食べたことを思い出しました。

会の幹事の皆様、よく勉強されているなど感心します。

今から時間がとれる行事には参加させてもらいたいと思っています。

**第320回例会 高良山樹木の名札付け****橘田沙弓**

4月29日(金、祭日)、高良内竹の子バス停に集合、参加者は16名で子どもは6名であった。許可を得ていた高良内幼稚園の駐車場に車をとめる。樹木の名札は久留米市農林課から緑の羽募金の費用で調達されたもので、黒のとじひもと黒マジックも用意して頂いた。

事前に黒岩展子さん、杉田州宏さんと共に、昨年、竹の子コースの登り口から林道まで終了。今年は林道から山頂まで調査した。

昨年は25科36種であったが、今年は27科44種、昨年のヤマモガシ、コガクウツギ、オオアリドウシ、コバンノキ、サルナシ、キリ、ヤマウルシは歩道沿いにはなかった。新たに見られたのはヤブツバキ、サカキ、ハイノキ、ミツバアケビ、サネカズラ、カゴノキ、アラカシ、ウラジロガシ、カマツカ、マンリョウ、ハクサンボク、ニワトコ、アオキ、ツルグミ、シャシャンボなどであった。

### 高良山南面「四季の森」2005.4.29 竹の子コース樹木の名札付け(林道～山頂)

クマツヅラ科	ヤブムラサキ、ムラサキシキブ
ツバキ科	ヒサカキ、ヤブツバキ、サカキ
ミミズバイ科	ハイノキ
モチノキ科	ネズミモチ、モチノキ、アオハダ
アケビ科	ミツバアケビ
モクレン科	サネカズラ
クスノキ科	タブノキ、クスノキ、カゴノキ、ヤブニッケイ
トウダイグサ科	アカメガシワ、ヒメユズリハ
ブナ科	シイノキ、アラカシ、ウラジロガシ
クワ科	イヌビワ
エゴノキ科	エゴノキ
ヤマモモ科	ヤマモモ
バラ科	カマツカ
ハイノキ科	シロバイ、クロバイ、クロキ
ボロボロノキ科	ボロボロノキ
ホルトノキ科	コバンモチ
マメ科	ヤマフジ
アカネ科	クチナシ
ウルシ科	ハゼノキ
ウコギ科	カクレミノ、コシアブラ
ヤブコウジ科	マンリョウ
スイカズラ科	キダチニンドウ、ハクサンボク ニワトコ、コバノガマズミ
ミズキ科	アオキ
グミ科	ツルグミ
ツツジ科	シャシャンボ
カバノキ科	イヌシデ
	26科43種

#### 樹木の名札付けとカブトムシ

##### 長門石小5年 松尾あまね

4月29日ゴールデンウィークの初日、高良山とカブトムシ牧場に行った。まず高良山に行って、そこで山頂まで歩いていながら木に名札をつけた。登る時はとてもキツかった。白いテープのついている木に名札をつける。途中でひもがなくなったので、あとは見つけても他の人にまかせた。頂上についてから、頂上からのながめはいいなと思った。

ツツジ公園でお弁当だったが、ぶた汁がとてもおいしかった。

次にカブトムシ牧場に河内先生につれていってもらった。そこには何千匹ものカブトムシの幼虫

がいた。こんなにたくさんどこで集めたのだろうと思った。ぼくはカブトムシの幼虫を21匹もらった。とてもうれしかった。そこでカブトムシおじさんに育て方の紙のコピーをもらった。次にカブトムシおじさんにつれられて、カブトムシの幼虫を育てているところにつれていってもらった。堆肥がたくさんあって、畑のようだった。そこにもたくさんの幼虫がいた。ぼくはここで育てていたんだなあとはじめて知った。ぼくたちはそこで幼虫を取る手伝いをした。そのあと幼虫を持っていきながら、カブトムシおじさんにさよならした。とても楽しかった。

#### 四季の森づくり事業竣工記念式典に臨んで 6月1日(水) 山川英毅

工期4年をかけて福岡県と久留米市が取り組まれた上記事業(竹の子コース、後谷コース)が完成されました。今後も高良山一帯において多くの市民と協働して四季折々の森を楽しむ多様な事業を企画されてます。

安全を期する事に重点を置かれ設計・施工された為と思いますが、不自然さが目立つたように感じられます。

今、公共事業に注目されているのは、自然の再生・ヒートアイランド対策と思いますが、私の目には違和感が残っています。又、大所帯の市会議員の方々94名に案内が出されたとのこと、事務局の苦労も大へんだと考えます。

今後諸般のイベントを思うといかがかなと思いやられます。ここは法定数(修正後)の2倍を超える議員さんがいらっしゃいますので、2倍の英知を結集して日本一(ダントツ)の久留米市を創造して頂きたいと願います。(烏合の衆にはならないで下さい。)

私の提案としましては、チップロードを取り入れた割には、ハードのムキ出しが多いと思います。

工事前の動・植物の分布が判りませんが、ここは人の手で助成する事が必要と考えます。各種のNPO・ボランティア・老人クラブ・学生・中学校・小学校・幼稚園等の参加を願い、全国のモデルと成ることを願います。

今、目につくのはクチナシ(黙視で語らず)・ヨウシュヤマゴボウ・マムシグサ・中折杉(未間伐)です。私は路肩に疑木杭とロープを張り、更に安全を図り、生物の早期な回復を手助けすべきと提案します。具体的には、四季の実りの植物を移植し、人も野鳥もホタルも楽しめる里の森になる事を願います。

植物として、イヌビワ・ヤマグミ・アキグミ・イチゴの10種・ヤマモモ・カキ・クリ・セキショウ・セリ他、魚貝類として、カワナナ・ヨコエビ・サワガニ・カワヨシノボリ・カワムツ他。

## 《行事案内》

### 第323 会例会:水辺の自然観察会

毎年、高良川の水辺の自然観察会を行っています。今年は、筑後川発見館くるめウス前、さくら橋下の水生生物(水生昆虫、魚類、その他)の河川敷の植物や昆虫などの観察を行います。ご自由にご参加下さい。

魚類等のご指導は橋本哲男氏です。

〔日時〕:7月24日(日) 9:00~12:00

〔集合〕:筑後川発見館くるめウス 9:00

〔参加費〕:100円

〔持物・服装〕:観察・採取用具、筆記用具、タオル、長靴、ゴムぞうりまたは古靴、濡れた場合の着替え、帽子、水筒など。

### 第324 回例会:観月会

外国の留学生を招待して、例年どおりお抹茶を頂きながら、月や星の観察をします。イベントはカサブランカ合唱団の方々と共に合唱を楽しみます。ご自由にご参加下さい。月面観察等のご指導は吉田哲磨氏です。

〔日時〕:9月10日(土) 19:00~21:00

〔会場〕:久留米大学御井学舎メディアセンター 1F

〔参加費〕:300円(お抹茶とお菓子を含む)

### 第325 回例会:高良山清掃ハイキングと自然観察

みどる山の会と同行し、高良山清掃ハイキングを兜山キャンプ場まで行います。帰路は高良山山頂南面の四季の森へ、自然観察をしながら高良内へ下山します。秋の自然を、満喫しましょう。ご自由にご参加下さい。

〔日時〕:10月16日(日) 9:00~15:00

〔集合〕:御井小学校前 9:00

〔解散〕:高良内町竹の子バス停 15:00

\*四季の森は久留米市が6月に開設しました。

## 《事務局だより》

合併後の久留米市は市議94人の巨大議会となり(本来なら46人と半分以下)議員報酬も格差是正で引き上げ、約7億円の経費増となるのに対し、市民団体がリコールを求めて署名活動を行った。8万余の必要数に7万6千と僅かに及ばなかったものの、短い期間・整わない体制の中多くの人が自主的に参加し関心の高さを見せた。さて当会もホームページを立ち上げた。末尾にアドレスを載せている。イベント案内など活用していただきたい。ご意見等もお寄せください。また環境読本が、河川情報センターの「ポータル」という月刊誌に掲載された。記事を見て早速「大学の講義で紹介したい」等の問い合わせも来ている。この冊子もホームページで検索できるのでご覧いただきたい。

「久留米の自然を守る会」ホームページ  
<http://www.geocities.jp/kurumenosizen/>  
 (金原優子)

### 1. 会員消息(入会)

富松弘江、橋本邦雄、高山純子(久留米市)

### 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

### 3. 原稿募集

次号90号は平成17年10月1日発行予定です。原稿の〆切は9月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

### 4. 幹事会のご案内

幹事会(定例)は原則として毎月第1水曜日の19:00~21:00まで、西町教育集会所で行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(7月6日、8月3日、9月7日、10月5日予定)

久留米の自然

平成17年7月1日 第89号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0851

久留米市御井町1595-9 金原優子方

TEL・FAX 0942-44-1942

印刷(有)プリンティング コガ

TEL 0944-88-0027 FAX 0944-88-0029